

## 令和7年度 第1回南空知定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録（要旨）

### ● 日時、出席者等

日時	令和7年7月10日（木）14時00分～15時55分
会場	岩見沢市役所4階 委員会室
出席委員等	委員12名、圏城市町企画担当部課長9名
報道	2社
事務局等	事務局4名

### ● 議事録（要旨）

会議次第	協議内容
委嘱状交付	
1 開会	
2 市長挨拶	
3 委員・事務局紹介	
4 座長互選	要綱に基づき座長・副座長選出。
5 報告事項 『南空知定住自立圏の取組みについて』	<p>I 南空知定住自立圏の取組みについて 別紙資料のとおり</p> <p>II 南空知定住自立圏共生ビジョンについて 別紙資料のとおり</p>
6 協議事項 『令和7年度南空知定住自立圏共生ビジョンの取組みについて』	<p>I 共生ビジョン懇談会について 別紙資料のとおり</p> <p>II 共生ビジョンにおける連携取組の考え方 別紙資料のとおり</p> <p>III 令和7年度における連携の方向について (既存9分野・12カテゴリ)</p> <p>■医療分野（救急医療体制） (委員)</p> <p>北海道中央労災病院は今年度で閉院のため、岩見沢市立総合病院の救急の受入れの負担が増えると思われる。</p>

医師会の会員も高齢化により休日夜間の受入体制が難しくなってきたおり、何とか維持できるようにしていきたいと考えている。

(委員)

地域包括ケアシステムにより、医療と介護の連携が重要となっているが、資源が分散しており、救急医療体制が整っていない市町は、他市町の医療機関を利用せざるを得ない。圏域内で資源を共有して補い合いながら、医療体制を底上げするシステムをどう作り上げるかが課題である。

#### ■教育分野（生涯学習・社会教育）

(委員)

どこのまちも少子化が進み、学校の統廃合が行われている。人口減少と少子高齢化対策は切っても切り離せない課題であるので、圏域内で唯一人口の減っていない南幌町を手本にするなどして対策を進めていかないと解決に向かわない。

(委員)

社会教育活動の参加機会の確保と記載があるが、様々なニーズを持った子供から大人までいて、例えば大学や市町村で様々な取り組みが行われており、最近ではオンラインでも興味関心のあるものを受講できる環境が整ってきている。

そういった環境が整い始めてきているのに、地元では、以前は他市町の大学と連携した取り組みが行われていたが、現在は取り組みが行われていない。なかなか年配の方が興味を持って、参加できるようなものがない。

(委員)

社会教育に関心のある方はいるが、地域にどうやって浸透させていくかは課題である。参加すると楽しさが分かってもらえるのだが。

#### ■産業振興分野（農業）

(委員)

スマート農業については、ドローンや自動操舵のトラクターの導入が進んでいる。特にドローンは免許の助成もあり手頃であるが、耐用年数が低いためコストが課題である。

#### ■産業振興分野（商工・雇用、観光）

(委員)

圏域内において、商工会議所同士の関りはあるが、商工会とは余り無い。創業・起業・就労支援などそれぞれがどのように行っているのか情報交換できれば良いと思うので、民間の連携をどう繋ぐか具体的方策を検討してほしい。

他の商工会議所と情報交換したところ、企業誘致を連携して行っていると聞いた。南空知圏域でも企業誘致を連携したらどうか。

(事務局)

担当者部会において、各商工会議所・商工会で行われている取組みの情報共有のほか、セミナーなども参加対象者を広げることを検討しながら進めていくと聞いている。

企業誘致についても、移住・交流と同様にスケールメリットを活かし、その圏域特性や魅力を共同で発信することによる効果、効率性が得られると考えるが、商工・雇用のカテゴリで定めた方向性のもとで連携を図っていきたい。

(委員)

圏域内にある商工会と商工会議所の連携はほとんど無い。南幌町や北広島市は、エスコンフィールドや道央圏連絡道路などにより、人口が増えているが20年後には人口減少が見込まれるので、色々な分野で商工会と商工会議所が連携できたら良い。

(委員)

定住も大事だが、そこで経済活性化していかないと人は増えない。道央圏では、ファイターズ2軍の誘致やラピダスも動き出しておりマイナス要因が無い。観光においては、DMOにより観光振興の取組みも進められている。

岩見沢商工会議所では、JR室蘭線の活用ということで、室蘭線を利用しながら地域間交流も行っており、こうしたことを圏域でどんどん行いながら目標に向かって共有できれば良い。

(委員)

観光に関しては、公共交通分野も絡んでくるが、圏域内の人をどうするかということと、圏域外の人をいかに呼ぶかが重要なテーマとなる。インフラの整備もそうだが、圏域の魅力を作り上げていくことも大事である。

■防災分野

(委員)

災害のニュースを見ると、避難所などでも色々と工夫されていることが報道されている。防災意識を高めるためには、展示会や実際に体験できる場があると良い。

#### ■公共交通分野

(委員)

先ほど、話があったような室蘭線を利用した地域間交流の取組みは良いことであるが、もっと学生の利用があると良い。札幌の高校へ行く学生も増えていると聞いているので、圏域内の高校に通ってもらう取組みも必要である。

また、夕張、栗山、由仁、長沼、南幌は札幌へのアクセスが悪く、デマンド交通で運行しているが、逆に札幌圏の人を域内に運んでくる仕組みができないため、そういった仕組みづくりも必要である。

(委員)

室蘭線は、新千歳空港まで行くルートもあり、便数は限られるが時間帯によっては札幌経由よりも早い。また、産業遺産としても価値があることから、観光などでも利用促進を図り交流人口を増やすことが重要である。

#### ■ICT インフラ分野

(委員)

金融機関でも DX の取組みを進めている一方で、金融犯罪も増えているため、高齢者向けの出前講座や若い世代への金融リテラシーのセミナーなどを行っており、こうした部分も広域で被害防止することを含めて考えていかなければならない。

#### ■移住・交流分野

(委員)

単独市町による移住プロモーションだけではなく、圏域全体の魅力や特性など、スケールメリットを活かした移住促進は大事な取組みであり、こうした取組みは継続することが重要である。

#### ■職員研修分野

(委員)

座学に関しては、eラーニングがたくさんあるので、必要な時に必要なコンテンツを活用できれば良い。OJTに関しては、今は離職や転職が多く、教える人の負担が大きくなっていく。研修に関しては、覚えたいという気持ちがないと前に進まないの、覚えたいときに

瞬時にそれが見れるような環境を整えることも大切である。

■人材育成分野

(委員)

地元の里山エリアを利用して、川遊びなどを通じた人づくりプログラムに取り組んでおり、他市町からも来ている。人材育成では、自然のなかでの教育も重要である。

IV 令和7年度における連携の方向について

(新規3分野・4カテゴリ)

■福祉分野（障がい者福祉）

(委員)

事務局から説明のあった成年後見支援センターは、単独の市町だけではなかなかできないこともあるが、広域的に何かを行う場合も、各市町の考え方もあるので、普及啓発など可能な範囲から連携することはできるのではないかと考える。

手話奉仕員の養成に関しては、教える立場の方の高齢化により難しくなっているため、講座の運営を工夫するなどして広域で連携できれば良い。

(委員)

高齢者が多くなってきて地域コミュニティの繋がりが欠如してきている。町内会や老人クラブも解散や休止するところが多く、繋がりを維持するための仕組みが必要である。

また、雇用や人材育成に関わる問題だが、介護人材不足に悩んでいる。福祉分野でも外国人労働者を雇用しているが、すぐに辞めてしまう方が多い。福祉を学びたいという方はいるが、働く人は少ない。魅力があまり無いため、人材確保、人材育成の課題を抱えている。必要な人材が不足しているということが現場で起きているため、魅力的な福祉分野が成り立つような方策を広域で連携して考えられると良い。

■教育分野（学校教育）、環境（環境・衛生）、道路インフラ

質問・意見等なし。

※これらの分野に関しては、今年度から担当者部会を設置して協議を進めていくので、今後、協議内容を確認していくこととする。

7 その他

事務局より、次回開催予定日について説明。

8 閉会